

■ 図書室紹介 ■

横浜市立みなと赤十字病院 図書室

吉村 晶子

横浜赤十字病院は2005年3月に閉院し、翌4月から横浜市指定管理者として横浜市立みなと赤十字病院が、23診療科、634床を有する横浜市の中核病院としてスタートしました。

当院は、みなとみらい地区に隣接し、東側には横浜港を背負い、南側には山手の丘を望む抜群のロケーションのもと、救急医療や地域医療等の推進にまい進しています。

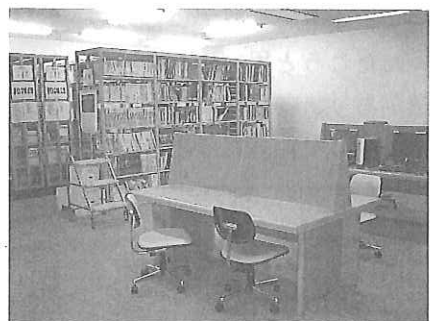
さて、新病院の図書室は横浜赤十字病院時代の図書室と比べ、約4倍の面積(123.73㎡)となり、倉庫のようであった以前の暗い雰囲気は一扫されました。前図書室から移設された移動書架や書棚に加え、パソコンは3台から8台に増設され、医中誌Webやオンラインジャーナルも数誌閲覧できます。また、以前は全くなかった閲覧席も4席設置することができました。そうしたことから、医師以外はほとんど利用されなかった図書室が、今ではさまざまな職種の職員が利用するようになりました。

しかしながら、開院から1年しか経過していないことから未整備な部分も多々あります。雑誌の整理・目録作成は終わりましたが、図書の整理に関してはまだ1/3程度しか終わっていません。蔵書されている図書は、前図書室のものと閉校した看護学校から貰い受けたものがあります。それらをNLM分類に統一

し、蔵書のデータ管理を進めているところで。また、当図書室の資料だけでは不十分なので、他の図書室に文献複写の依頼を出せるように整えていきたいと考えています(他の図書室からの依頼は受けています)。しかし現状は別の業務との兼務の為、順調に整理・整備していくことができません。

そうした中、これからの図書室の運営方法や年間雑誌の購入など未整備なところは、図書委員会を通じて一つひとつ改善していき、職員の方々にとって、便利で居心地の良い環境を提供できるよう努力していきたいと思えます。

今後ともよろしく願いいたします。



YOSHIMURA Akiko
横浜みなと赤十字病院